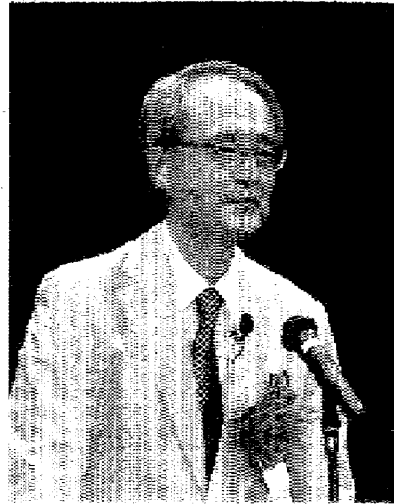


光悦と西尾の関わり

鑑定団でおなじみ 増田氏語る

第45回市民歴史講演会



講演する増田学氏

西尾文化協会(榊原康三会長)主催の第四十五回市民歴史講演会が十九日、西尾市文化会館で開かれ、講師を迎えた書跡史学者・文学博二で、増田学氏が、「本阿弥光悦と西尾」と題して話した。

「レビ東京の人気番組『開運!なんでも鑑定団』の鑑定二としておなじみの増田学氏が、「本阿弥光悦と西尾」と題して話した。講演で増田氏は、本阿弥光悦(一五五八〜一六三七)に関する資料約五百点を調査したことを紹介。「全部調べると光悦の人格が分かってくる。その中に唯一、『三州』が出てくる手紙があった。

「どうしてなのかと。思っていたが、西尾市貝吹町の長圓寺に光悦の銘文が彫られた手水(へちまうず)鉢がある。三河と光悦は深いつながりがあると思ひ、入り込んでみると、句となくつながりが見えてきた」と切り出した。

「手紙に刀剣の話はほとんど出てこなかった」と、刀剣の家に生まれながら、家業は継がなかった。徳川家康が征夷大將軍になった慶長八(一六〇三)年、家康の忠臣だった坂倉勝重が、岡崎市中央島町にあった安永寺を中島長圓寺として再建した。坂倉家は京都所司代になり、寛永七(一六三〇)年、勝重が亡くなつて三回忌の時、今の長圓寺の

寺の貝と光悦の重宗は板に二枚めした。康か京もら家ところるを弔文を尾と銘水鉢

たと推測。「趣味としてお茶が好きだった。お茶を生涯の楽しみとして、趣味の世界で生きることができた。書家としても有名になった」と光悦の人格を紹介した。

寺の重宗は板に二枚めした。康か京もら家ところるを弔文を尾と銘水鉢

親子の道徳心育む

西尾JC 多彩なチャレンジで



ドミノ倒しを楽しむ親子

西尾青年会議所(河合恒一理事長)は十八日、お互いに尊重し合い、思

いやりを持つる人財を西尾市文化会館で行い、親子四十組がさまざまなチャレンジを通じて、思いやりの心の大切さを学んだ。

「親子チャレンジ」と題し、参加親子は五グループに分かれ、同じレイアウトの二つの部屋を

行き来して見つける間違を探し、六チームでドミノを作つてつなげるドミノ倒し、二組で協力して行う謎解きゲーム、竹馬など体を動かすアトラクション、子どものジェスチャーを親が当てるゲームに挑戦した。

その後、「心の授業」心を耕そう」をテーマに、

全国各地で法話を行っている奈良県葉師寺副執事長の大谷徹装さんによる講演があり、最初は子ども向け、続いて大人向けに語りかけ、親子は温かい心や柔らかい心をつくるための方法を学んだ。

河合理事長は「自分も親になって四年生だが、子どもが生まれて初めて親になる。子どもは親のまねをする。親子で思いやりについて考え、親の背を子どもに見せられるようにしてほしい。子どもたちには、授業だけでは分からない思いやりの大切さに気付いてほしい」と話していた。